

NY 12月のお気に入り  
お気に入り  
12月の暮らし  
で彩る



大石育子

インテリアコーディネーター、食空間プランナー、英国式紅茶インストラクター。日本フィンガーフード協会認定講師。食空間プロジェクト(FSPJ)認定サロン、初級ディプロマ発行校 Atelier de Ikuko New York 主宰。「東京ドーム・テーブルウェアフェスティバル」特別審査部門で2019、2020年と2年連続入選、2020年、テーブルウェア・コーディネート部門入選、特別審査部門・奨励賞受賞。日本クラブカルチャー講座講師。  
<http://atelierdeikukony.amebaownd.com>



# うつわに恋して

## 2020年総集編

インテリアコーディネーターの大石育子さんが食卓周りの演出術を伝授する好評連載。

2年目は大石さんのお気に入りのうつわをご紹介しました。写真とともに振り返ります。

### 1月 Imani

by Royal Crown Derby

17世半ばからヨーロッパに輸出された伊万里焼は1867年のパリ万博以降、ジャポニズムの象徴として大人気に。とりわけ王侯貴族の間で流行し、各国で伊万里風のうつわが作られました。ロイヤル・クラウン・ダービーの他にもデルファインやエインズレイ、マイセン、ロイヤルコペンハーゲンなど世界中の名窯に残るデザインがジャポニズムの影響を受けています。



### 2月

### 唐獅子牡丹のうつわ

by 心和庵

唐は中国。獅子は百獣の王、牡丹は百花の王で、縁起の良い組み合わせです。無敵の獅子が1つだけ恐れるものはその体毛に宿り、やがて孵化して肉に食らいつく寄生虫。しかしこの虫は牡丹の花から滴る夜露に当たると死んでしまうため、夜になると獅子は牡丹の花の下で眠ります。獅子の安住の地は牡丹であることから「あなたの拠り所は？」とのメッセージが込められているとの言い伝えもあります。



### 3月

### wild Strawberry

by wedgwood

ウェッジウッドはジョサイア・ウェッジウッドが1759年に創設した英国の陶磁器メーカー。クリーム色の陶磁器を發明し、英王室から「クィーンズウエア」の名称を授かりました。ワイルドストロベリーはジョサイアが残した最初のデザインブックに残っており、同社で最も古い絵柄の1つとされています。



### 4月

### Silverware

by Christofle

1830年創業のクリストフルは、フランス王ルイ・フィリップ(1773~1850)が王室御用達に認定してから名だたる著名人に愛用され、現在でも銀製品のトップブランドとして君臨しています。クリストフルの銀メッキの厚みは一般的なメッキの10倍以上の40ミクロン。これが親子3代で使える「財産」と称賛されるゆえんです。



5月

Patricia Rose  
by Susie Cooper



20世紀を代表する英国の陶器デザイナー、スーザン・ヴェラ・クーパー(1902~1995)の代表的デザイン。日本ではダントツの人気で、世界中のコレクターの憧れの的。産業革命と2つの大戦に挟まれた激動の時代に生まれたスージーの作品は、温もりに満ちた美しさを求める人々に愛されました。

6月

Blue Italian  
by Spode

英国陶器の故郷、ストーク＝オン＝トレントでジョサイヤ・スポードが1770年に創業。1806年に英王室御用達となりました。1816年に誕生した「ブルーイタリアン」は現存する食器のデザインの中では世界で最も古いものの1つ。絵柄は英国の田園風景ですが、縁取りは伊万里に代表されるジャポニズムの影響がみられます。



7月

Real Old willow  
by Booths

ブースは、1868年にトーマス・ブースが設立した英国の陶磁器メーカー。「リアル・オールド・ウィロー」は1906年の考案、同社最大のベストセラーです。ウィローパターン(柳)の陶磁器はさまざまなメーカーが制作していますが、どれも必ず同じものが描かれています。ウィロー(柳)に空を飛ぶ2羽の鳥、楼閣と茶室の間には中国風の橋と3人の人物、小舟…。そこに秘められているのは、中国に古くから伝わる悲しい恋の物語なのです。



8月

Acrylic-ware  
by Mario Luca Giusti

イタリアはフィレンツェ出身の食器デザイナー、マリオ・ルカ・ジスティが2007年に発表した同名のアクリル製食器。イタリアならではのモダンで鮮やかな発色、深い透明感、エレガントなクリスタルの輝きを持つ高級感あふれるうつわです。割れて破片が飛び散る心配がないので、アウトドアでも大活躍。手に入れやすいお値段も魅力です。



9月

Ecume  
by Bernardaud



1863年にフランスはリモージュで生まれたナポレオン3世御用達の窯、ベルナルドからお気に入りのシリーズ「エキュム」をご紹介します。リムの部分が発砲スチロールの断面のような気泡状になっているのに注目。ベルナルドはインテリアやアクセサリーなど生活空間における幅広い楽しみ方も提案。世界中の一流シェフに愛されています。

10月

La Cocotte  
by Staub

毎月のテーブルコーディネートにも日々のお料理にも欠かせない相棒、ストウブ。代表的な鋳物ホーロー鍋やセラミック製品は世界中のシェフや美食家たちに愛されています。黒い厚手の鍋ピコ・ココットが有名。蓋の裏に付いている突起(ピコ)が素材から出る蒸気を再び水滴化してふっくらと仕上げます。



11月

Royal Staffordshire Tonquin Red  
by Clarice Cliff

ロイヤルスタッフォードシャーのトランスファーウェア「トンキン」は、米国でも比較的手に入りやすい英国アンティークの1つ。赤の他に茶、青、紫などがあります。デザイナーのクラリス・クリ(1899~1972)は「セラミックの詩人」と呼ばれた英国人陶芸家。絵柄は一見、東洋風に見えますが、モノア(貴族の別荘)を描いたものといわれています。



12月

Christmas Ball  
by Old Noritake



日本が誇る陶磁器メーカー、ノリタケの海外向けシリーズ「オールドノリタケ」は、金彩を用いた豪華なものから幾何学模様のシンプルなものまでさまざまですが、純金に近い23金や24金が使われているのが特徴。ヨーロッパの窯の長所を研究し、日本の美意識と卓越した技術で作られた陶磁器は、世界中のコレクターから愛されています。「クリスマスボール」は1918年頃にデザインされたもの。1921年から1941年頃まで製造され米英に輸出されました。